

会員
限定

一般社団法人日本トンネル技術協会 設立50周年記念特別講演会



日時 2025年6月9日(月)15時00分～16時00分

会場 都市センターホテル コスモスホール
(東京都千代田区平河町2-4-1)

講師 春山 純一氏 (JAXA)

演目 「月の地下のトンネル」



【講演の概要】

月面は大気がなく、小隕石や放射線が直接降り注ぐ過酷な環境です。特に放射線は人間の致死量に達することもあり、月の砂(レゴリス)を被せる対策が逆効果になる可能性も指摘されています。このような危険を回避できる場所として注目されるのが、月の溶岩トンネルです。さらに、月の溶岩トンネルは科学研究の点でも非常に重要な場所です。

講演者は、日本の月探査計画「SELENE(セレーネ)」に参加し、主責任研究者として開発した「地形カメラ」により、月面に深い穴「縦孔」を発見しました。この縦孔は、地下の溶岩トンネルへの入り口である可能性があります。現在、講演者などは「うずめ計画」と名付けた計画で、月や火星の縦孔、地下トンネルを探査する準備を進めています。

《講演内容は、会誌「トンネルと地下」2025年8月号に掲載します》

【講師の紹介】

春山 純一氏 博士(理学) 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所

福島県出身。専門分野は惑星科学。

京都大学大学院生時代に宇宙科学研究所で研究を行い、京都大学から博士号(理学)を取得。カリフォルニア工科大学でポスドクを経験後、帰国して旧宇宙開発事業団で月探査計画(後のSELENE「かぐや」)の立ち上げに参加、地形カメラの開発リーダーも務めた。その後、宇宙3機関の統合に伴い、宇宙科学研究所(ISAS)に異動。

現在は、月惑星科学の研究およびさまざまな月惑星探査計画に携わる一方、小惑星探査「はやぶさ2」、火星衛星探査「MMX」などの計画にも参加するほか、総合研究大学院大学等で、研究指導を行っており、最近では、月で発見された縦孔・地下空洞直接探査(UZUME)計画の実現を目ざしている。

会場聴講 定時総会参加者 200名

リモート聴講 WEB(Zoom) 500名

(アクセスするためのURLとパスコードは、定時総会開催案内のウェブサイトに掲載します)



一般社団法人日本トンネル技術協会